



No Damage,

脳ダメージがあつてこそこの、人生

No Life.

右片麻痺、左片麻痺、失語症。
脳にダメージを受けた3人のフォトグラファーが出会い
それぞれのLife (生活、生命、人生) を写真で表現する。

●加藤俊樹 (失語症) ●フィリップ本橋 (左片麻痺) ●川名マッキー (右片麻痺・構音障害)

障害者フォトグラファー写真展



© 加藤俊樹



© フィリップ本橋



© 川名マッキー

2024.5.17(金) ~5.27(月)

※5月21日(火)は休館日

会場：障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡 8階「展示コーナー」

神奈川県横浜市港南区上大岡西 1-6-1 ゆめおおおかオフィスタワー 8階

主催／障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡
(社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団)

彼らは「脳卒中」で倒れて多くのものを失いました。 でも時間が経つにつれ、新たに得るものがあったのです。



「脳卒中」。脳の血管が詰まったり閉塞することで、ダメージを受けた場合は「脳梗塞」と言います。また、脳の血管が破れ出血することで、ダメージを受けた場合は「脳出血」という病名になります。

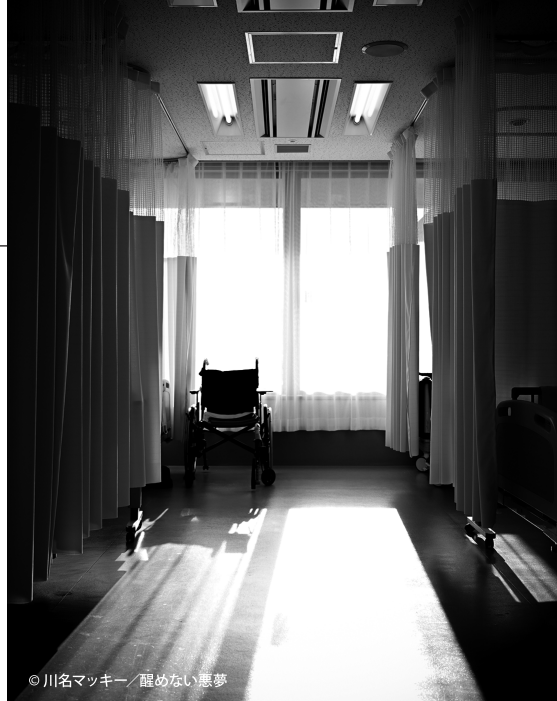
この写真展は、障害者フォトグラファーの3名が、独自の視点で捉えた瞬間を共有する場です。彼らは自らの困難に関わらず、生命の尊さや喜びを感じ、柔らかな表現で写真に写し出しています。

タイトルの『No Damage, No Life.』は「脳にダメージを受けたら、もう人生おしまい」という意味にも解釈できます。脳卒中になり後遺症を抱えている方の中にはそう感じている方も少なくないでしょう。

しかし、ここで掲げた『No Damage, No Life.』は、優しさや共感を持つ社会への一歩を踏み出すことを期待しています。脳にダメージを受けた方だけでなく、さまざまな障害をもった方、精神的にダメージを受けた方、そして、障害があるご家族をお持ちの方に見てほしいという思いを込めています。

写真はコミュニケーションの一部。生きる力を与えられるような写真展になると確信しています。彼らの感性と生命の尊さを感じていただければ幸いです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

社会福祉法人 横浜リハビリテーション事業団
障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡



©川名マッキー／醒めない悪夢

No Damage, No Life. 脳ダメージがあつてこそ、人生

Facebook 



Toshiki Kato
加藤俊樹
失語症（脳出血）

かとう・としき。元・カメラ雑誌編集者、現在カメラメーカー所属。脳出血で倒れ、失語症になる。「話す」「聞く」「読む」「書く」などが難しくなる。日産厚生玉川病院で5ヶ月入院。退院後は、玉川病院と高次脳機能障害地域活動支援センターでリハビリ。写真家・瀬戸正人氏のワークショップで、個展の作り方を教わる。

- 1965年 岐阜県生まれ
- 1998年 カメラ雑誌編集者
- 2008年 カメラメーカー勤務
- 2012年 7月 脳出血発症
- 12月 退院。通院し言語リハビリを続ける
- 2014年 5月 カメラメーカーに復職
- 2016年 瀬戸正人氏の「夜の写真学校」に参加
- 個展
- 2018年 3月 「失語症」(Place M)
- 2018年 8月 「失語症」(日産厚生会玉川病院)
- 2019年 1月～3月 「失語症」写真展 (Roonee 247fine arts)
- 2021年 5月 「失語症」(ソラリス)
- グループ展
- 2023年 4月～6月 JAPAN PHOTO INTUITION「失語症にける言葉」(KG+)
- 雑誌
- 2019年 5月 日本カメラ「失語症」
- 写真集
- 2019年 1月 写真集「失語症」(Place M)

Facebook 



Philip Motohashi
フィリップ本橋
左片麻痺（脳梗塞）

ふいりつぶ・もとはし。フォトグラファー。茨城県出身、西東京市在住。脳梗塞の後遺症による左半身麻痺のため諦めていた写真撮影を2022年に再開。川名マッキー氏主宰のプロカメラマン養成講座を経て同12月にプロ宣言。自力歩行が故に動き回りにくく、それを逆手に取り、地元の西東京市密着に拘った撮影に取り組んでいる。西東京市文化芸術振興会会員。

- 1965年 茨城県生まれ
- 1985～2006年 名古屋でアートディレクター・デザイナー・コピーライターとして勤務
- 2006年～ 都内で広告宣伝兼カメラマンとして勤務
- 2019年 5月 脳梗塞発症
- 2019年 8月 退院 復職
- 2022年 8月 GANREF「今日の一枚」に選出
- 2022年 10月 川名マッキー氏主宰プロカメラマン講座修了
- 2022年 12月 プロカメラマン宣言
- 2023年 3月 西東京市文化芸術振興会主催写真展 第4回西東京百姿 入選
- 2023年 3月 西東京市文化芸術振興会主催写真展 第5回西東京百姿 入選(表紙作品に選出)
- 2024年 3月 「これはポートレートではない！」(sa-yo:)
- グループ展
- 2023年 7月 「ケアマネジャー」大村美樹子氏撮影
- 雑誌
- 2023年 11月 「ケアマネジャー」大村美樹子氏撮影

Facebook 



Macky Kawana
川名マッキー
右片麻痺・構音障害（脳出血）

かわな・まっきー。横浜出身・在住のフォトグラファー&グラフィックデザイナー。脳出血の後遺症で右半身の片麻痺、および構音障害による発音不備が残る。退院後、横浜市総合リハビリテーションセンターに入所し、3ヶ月後の2021年4月に退所。退所してすぐに写真展「破壊と創造」を開催。現在は電動車椅子に乗って仕事を再開している。

- 1964年 神奈川県生まれ
- 1985年 デザインオフィス勤務
- 1992年 フリーランスとして独立
- 2007年 プロカメラマン宣言
- 2020年 6月 脳出血発症
- 12月 退院
- 2021年 1月 横浜市総合リハビリテーションセンター入所
- 4月 退所
- 個展
- 2015年 5月 「Facelock ～表情～」(リーフみなとみらい)
- 2019年 9月～10月 「川名マッキーの仕事展」(sa-yo:)
- 2021年 4月～5月 「破壊と創造」(此のみち)
- 2021年 10月 「破壊と創造+α」(sa-yo:)
- 2021年 12月 「破壊からの復活」(ラポール上大岡)
- グループ展
- 2020年 1月 「同業異業種ジェラシー」(sa-yo:)
- 2020年 7月 「六人の野鳥展」(sa-yo:)*入院中
- 2023年 7月 「これはポートレートではない！」(sa-yo:)
- 2024年 1月 「メンズセルフポートレート展」(sa-yo:)
- 雑誌 ※フォトグラファー&誌面デザイン
- 2012年～2020年 「ニューミニ・スタイルマガジン」
- 写真集
- 2020年 5月 写真集「百顔繚乱(ひゃがんにょうらん)」

日時

2024年5月17日(金)～27日(月)

※5月21日(火)は休館日のため、メイン会場は休みとなります。

10:00～16:00

〈入場無料〉

会場

〔メイン会場〕
障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡
8階「展示コーナー」(ゆめおおおかオフィスタワー8階)

〔サブ会場〕
ウイング上大岡2階「ガーデンコート」
(京急線、横浜市営地下鉄線「上大岡駅」直結)

※サブ会場はウイング上大岡の営業時間内の展示となります。

展示
会場の
ご案内

展示会に関するお問い合わせ先

障害者スポーツ文化センター ラポール上大岡 管理運営課 文化担当

〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-6-1 ゆめおおおかオフィスタワー7階(写真展は8階)

電話 045-840-2151 FAX 045-840-2157

障害者スポーツ文化センター

